

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 8 日現在

機関番号：14401
研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2011～2014
課題番号：23320087
研究課題名(和文) 役割語の総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive research of role language

研究代表者
金水 敏 (KINSUI, Satoshi)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：70153260
交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,300,000円

研究成果の概要(和文)：「役割語」とは、主にフィクションにおける、登場人物の人物像の社会的類型とステレオタイプ的に結びついた、その人物の話し方のパターン(語彙、語法、定型表現、音調、抑揚・テンポ等)のことを指し示す概念である。本研究では、この役割語について、(1)理論、(2)対照研究と国際的情報交換、(3)日本語を中心とする語彙論的研究、(4)個々の類型の歴史的研究、(5)応用的研究・その他といった観点から総合的に研究を進めていくことをめざし、相応の成果を得た。

研究成果の概要(英文)：A particular expression (in terms of vocabulary, grammar, set phrases, intonation and speech tempo) can be sometimes linked to its speaker's personal makeup: age, gender, occupation, social class, generation, looks and personality. Such expressions are called role language. The goals of this project were five-fold: (i) to further develop the theory of role language, (ii) to develop comparative studies of role language, (iii) to study role language vocabulary in Japanese historically, (iv) to investigate the history of various types of role language, and (v) to extend role language studies to relevant fields.

研究分野：人文学

キーワード：言語学 ステレオタイプ 歴史 ポピュラーカルチャー 心理言語学 語彙論

1. 研究開始当初の背景

「役割語」という概念は、金水 (2000) および金水 (2003) で公になった。後者の定義では「ある特定の言葉遣い(語彙・語法・言い回し・イントネーション等)を聞くと特定の人物像(年齢、性別、職業、階層、時代、容姿・風貌、性格等)を思い浮かべることができる、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉遣いを思い浮かべることができる、その言葉遣いを「役割語」と呼ぶ。」(205頁)というもので、人物像と言葉遣い(話し方)の心理的連合関係と捉えられる。さらに金水 (2003) では、この関係は社会に共有された、ステレオタイプ的なものであることも明らかにされた。

この役割語の概念をより精緻化し、またさまざまな分野との融合の可能性を探るプロジェクトが始動した。科学研究費基盤研究(B)「役割語の理論的基盤に関する総合的研究」(研究課題番号:19320060、代表者:金水 敏、研究期間:2007年度~2010年度)がそれである。この研究費のもと、金水(編)(2007)が出版され、また2009年3月、シンポジウム・研究発表会「役割・キャラクター・言語」が開催された。

引用文献

金水 敏(編)(2007)『役割語研究の地平』くろしお出版

2. 研究の目的

「役割語」とは、特定の人物像(キャラクター)と心理的に結びついた話し方である。本研究では、日本語を中心に役割語の研究を(1)理論、(2)外国語との対照および国際的な情報交換、(3)語彙論的研究、(4)各種役割語の起源・歴史、(5)応用その他の5つの観点に分け、それぞれについて相互連携的に研究を推進しようとするものである。

(2)では欧米語および東アジア諸言語を中心に、文化差についても勘案しながら、類型論的に考察する。

(3)では、日本語を中心に、語彙の観点から役割語の全体像を明らかにする。

(4)では個別の役割語構成要素についてその起源と発達過程を明らかにする。

(5)では日本語教育、人文学入門の分野における教育プログラム等の開発について検討するほか、発達心理学的研究として、4歳児~成人まで、成長の各段階での役割語知識の獲得過程について実証的に研究する。

これらを総合し、(1)として役割語の総合的な理論の構築を目指す。

3. 研究の方法

(1)理論:下記の(2)~(5)の成果を総合し、仮説の提示と検証によって、役割語の理論的基板について明らかにする。特に、「キャラクター」という概念と役割語との関連に焦点を当てる。

(2)外国語との対照および国際的な情報交換:役割語の構成要素を、「言語的な表現手段」と「役割語が表し分ける人物類型」に分けると、前者は例えば「主語・動詞の一致現象の有無」など、各言語の言語類型論的な要素であり、後者は各地域の社会的・文化的・歴史的な要素である。この二つの観点からさまざまな言語について観察を重ねていく。また、世界の各地域に赴いて、現地の研究者・学生と情報交換を進める。

(3)語彙論的研究:(2)で触れた、「言語的な表現手段」という点で日本語を見ると、語彙的な要素の果たす役割が大変大きいことが分かる。そこで、日本語の役割語に関わりの深い語彙項目を分類・整理することにより、日本語の役割語が表し分ける人物類型の目録も入手できる。この目的のために、日本語役割語の辞書を編纂する。

(4)各種役割語の起源・歴史:主要な役割語について、その起源を遡り、用例を含む文献を収集・整理し、その時代背景と重ね合わせることで、なぜその役割語が生まれ、発達し、(場合によっては)衰退したかということを考察する。特に、金水(2003)、同(2006)、伊藤(編)(2008)第1章で金水が取り上げてきた、「アルヨことば」に焦点を当てる。

(5)応用その他:日本語教育、放送用語、各種創作、人文学の入門教育等への応用の可能性を、当事者とのディスカッションその他から追求する。

4. 研究成果

(1)役割語が表す人物像とはどのようなものか、という点について「キャラクター」という側面から考察する。斎藤(2011)、定延(2011)、Brewer(1988)等をふまえ、キャラクターとは個体を属性の面から記述すること、またその属性それ自体と考えるに至った。また役割語は、キャラクターの持つ属性のうち、社会的・文化的属性(性別、年齢・世代、社会的階層等、(および時代))と結びついた話し方に限定されるものと再定義した。さらにこれ以外の属性と言葉遣いの特徴が結びつく場合、これを「キャラクター言語」と名付け、特定個人の特長ある言葉遣いや、「ツンデレ」など、フィクションのジャンルに偏りのある表現特長などがここに含まれることを示した。

(2)対照研究としては、英語(特にいわゆる黒人英語(AAVE))、ドイツ語、スペイン語、中国語、韓国語、タイ語等で研究が進められており、それぞれの研究者と意見交換・情報交換を計った。その結果、タイ語(および韓国語)を除き、語彙的な面で女性の話し方を区別する言語は少ないことが分かった。さらに、老人語をやはり語彙的な側面から表現する言語も今のところ日本語に限定される(ただし韓国語は、対人敬語の組み合わせ等により、話者間の年齢差や性差が限定されることがあることも明

らかにされている。鄭 2007 参照)

また、金水はタリン(エストニア)、淡江(台湾)、マンチェスター(イギリス)、オロモウツ(チェコ)、ハルビン、武漢(中国)、釜山(韓国)、ベルゲン(ノルウェー)、ホノルル(アメリカ)の各地域で講演を行い、現地の研究者や学生と情報交換を進めた。さらに、2014年2月に国際ワークショップを開催し、日本の他、アメリカ、チェコ、中国、台湾からの参加があった。

(3) 語彙的な側面の研究としては、語彙項目リストとのその記述を辞書体に編集し、研究社より刊行することができた(金水(編)2014)。見出し語数200超、また、取り上げられた役割語の種類は50種超となり、日本語の役割語の全体像が語彙の面からある程度明らかになった。

(4) アルヨことば および関連の言語についての考察は金水(2014)としてまとめられた。アルヨことばがフィクションに取り上げられたものの最初期の作品としては1921年の宮沢賢治「山男の四月」が挙げられるが、その原型としては、1879年の *Exercises in the Yokohama Dialect* (改正増補版)が指摘できる。また1921年段階では、中国人の描写としてアルヨことばは必ずしも一般的ではなく、「あります」語法や、個別的な描写が多かった。

アルヨことばが中国人と強く結びつくようになったのは、日中戦争開始前後、及びその後のポピュラーカルチャー作品の影響力が強かったことを示した。また満洲を中心に日本人の間で行われたピジン的一種が、逆に現代中国人にとっての日本兵のステレオタイプ的な描写に影響を与えていることも示した。

(5) 応用については、日本語教育における役割語が果たす役割について論文を発表したほか、イギリスの日本語教育学会での講演も行った。人文学入門の教材として役割語が有用であることは、学部生の卒業論文に優れた成果が現れていることを金水(編)(2011)の中で示した。その他、テレビのスポーツ報道で用いられる翻訳テロップでの役割語使用など、多様な媒体での役割語の実態について論文が発表された。2014年発刊の『役割語 小辞典』は多くの注目を集め、言語作品の実作者や教育者にとっても有用なツールとなることが示されつつある。

また、発達心理学の立場から、5歳児の役割語認知能力について抑揚の効果が大きく働くことについても明らかになった。

(引用文献)

- 金水 敏 (2014) 『コレモ日本語アルカ? 異人のことばが生まれるとき』岩波書店、
金水 敏 (編) (2011) 『役割語研究の展開』くろしお出版
金水 敏 (編) (2014) 『役割語 小辞典』研究社

金水 敏・田中ゆかり・岡室美奈子(編)(2014)『ドラマと方言の新しい関係-『カーネーション』から『八重の桜』、そして『あまちゃん』へ』笠間書院

斎藤環 (2011) 『キャラクター精神分析 マンガ・文学・日本人』筑摩書房

定延利之 (2011) 『日本語社会のぞきキャラクター 顔つき・カラダつき・ことばつき』三省堂

鄭 恵先 (2007) 「日韓対照役割語研究 その可能性を探る」金水(編)(2007)『役割語研究の地平』(くろしお出版)

Brewer, M. B. (1988) "A dual process model of impression formation," T. K. Srull & R. S. Wyer, Jr. (eds.) *Advances in Social Cognition*, vol. 1, pp. 1-36, Academic Press, New York.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

(雑誌論文)(計3件)

金水 敏 (2011) 「役割語と日本語教育」『日本語教育』150号, pp. 34-40, 日本語教育学会

金水敏他 (2011) 「大阪大学卒業論文より(2002~2010)」金水敏(編)『役割語研究の展開』pp. 249-262, くろしお出版

Teshigawara, Mihoko & Kinsui, Satoshi (2011) "Modern Japanese 'Role Language' (Yakuwarigo): fictionalised orality in Japanese literature and popular culture" *Sociolinguistic Studies* Vol 5-1: 37-58, Sheffield: Equinox Publishing.

(学会発表)(計14件)

菅さやか, 松井智子, 金水敏 (2015/3/21) 「音声の抑揚が役割語理解に及ぼす影響の発達の比較」日本発達心理学会 第26回大会, 日於東京大学本郷キャンパス

金水 敏 (2015/2/17) 「キャラクター言語から役割語へ」役割語・キャラクター言語研究国際ワークショップ, 主催: 科学研究費「役割語の総合的研究」(課題番号 23320087) 共催: 大阪大学大学院文学研究科, 於大阪大学会館講堂

山木戸浩子 (2015/2/17) 「役割語としての「アフリカ系アメリカ人の日常英語(AAVE)」について」役割語・キャラクター言語研究国際ワークショップ, 主催: 科学研究費「役割語の総合的研究」(課題番号 23320087) 共催: 大阪大学大学院文学研究科, 於大阪大学会館講堂

金水 敏 (2014/2/15) "The State of Art in Role Language Research," workshop "Fiction and Practice

in Japanese: “ Virtual Language ” and
“ Gender in Language, at Hawaii
University, Manoa

金水 敏 (2013/9/19) 「 役割語とは何か」
日本心理学会第 77 回大会 公募シンポ
ジウム「言語行動研究の魅力：心理学に
もたらすインパクトについて考える」,
日本心理学会, 於札幌コンベンションセ
ンター107

金水 敏 (2013/8/21) “The State of Art in
Role Language Research,” NAJAKS
2013, Nordic Association of Japanese
and Korean Studies, at Terminus Hall
in Grand Hotel Terminus, Bergen

金水 敏 (2013/6/25) 「 役割語とは何か」
於ハルビン工業大学 (中国・ハルビン)

金水 敏 (2013/6/24) 「 役割語とは何か」
於黒竜江大学 (中国・ハルビン)

金水 敏 (2013/5/2) 「 役割語研究の現在」
ワークショップ「台詞や小説における役
割語」パラツキー大学日本語学科, パラ
ツキー大学 (チェコ・オロモウツ)

(10)金水 敏 (2013/3/14) 「 役割語研
究の現在」言語処理学会 第 19 回年次大
会 招待講演, 言語処理学会, 於名古屋
大学東山キャンパス IB 大講義室

(11)金水 敏 (2012/12/15) 「 役割語研究の
現在」2012 年度台湾日本語文学会大会,
台湾日本語文学会, 於淡江大学淡水キ
ャンパス

(12)金水 敏 (2012/10/14) “ Keynote
Speech: The Status Quo of the Role
Language Research,” The 22nd
Japanese/Korean Linguistics
Conference, Japanese/Korean
Linguistics Conference, 於国立国語研
究所

(13)金水 敏 (2012/9/1) 「 役割語研究
の現在」第 15 回 BATJ 大会, 於
Chancellor 's Hotel, The University of
Manchester

(14)金水 敏 (2011/11/2) 「 役割語」研
究の展望」日本学講演会, 釜山大学,
日本研究所・日本語日本文学部, 於釜山
大学人文館 501 号室

〔図書〕(計 4 件)

岡本恵徳・高橋敏夫・本浜秀彦(編)(2015)
『新装版 沖縄文学選 日本文学のエッ
ジからの問い』 勉誠出版, 432 頁

金水 敏 (2014) 『コレモ日本語アルカ？
異人のことばが生まれるとき』 岩波書店,
viii+220+18 頁

金水 敏(編)(2014) 『 役割語 小辞典』
研究社, 270 頁

金水 敏・田中ゆかり・岡室美奈子(編)
(2014) 『ドラマと方言の新しい関係-『カ
ーネーション』から『八重の桜』、そして
『あまちゃん』へ』 笠間書院, 103 頁

〔産業財産権〕 出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
「SK の役割語研究所」
<http://skinsui.cocolog-nifty.com/sklab/>

6. 研究組織

(1)研究代表者

金水 敏 (KINSUI, Satoshi)
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号：70153260

(2)研究分担者

本浜秀彦 (MOTOHAMA, Hidehiko)

文教大学・国際学部・教授

研究者番号：60441961

山木戸浩子 (YAMAKIDO, Hiroko)

藤女子大学・文学部・准教授

研究者番号：00582496

(H24 年度より研究分担者)

岡崎友子 (OKAZAKI, Tomoko)

東洋大学・文学部・教授

研究者番号：10379216

(H21 年度まで研究分担者として参画)

(3)連携研究者

菅さやか (SUGA, Sayaka)

愛知学院大学・教養部・講師

研究者番号：30584403

松井智子 (MATSUI, Tomoko)

東京学芸大学・国際教育センター・教授

研究者番号：20296792

定延利之

神戸大学・国際文化学術研究科・教授

研究者番号：50235305

鄭惠先 (JUNG, Hyeseon)

北海道大学・留学生センター・准教授

研究者番号：40369856
勅使河原三保子 (TESHIGAWARA, Mihoko)
駒澤大学・文教育学部・准教授
研究者番号：40402466
岡崎友子 (OKAZAKI, Tomoko)
東洋大学・文学部・教授
研究者番号：10379216
(H22 年度より連携研究者)
山口治彦 (YAMAGUCHI, Haruhiko)
神戸市外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号：90220269
西田隆政 (NISHIDA, Takamasa)
甲南女子大学・文学部・教授
研究者番号：20228191
吉村和真 (YOSHIMURA, Kazuma)
京都精華大学・マンガ学部・教授
研究者番号：00368044
岩田美穂 (IWATA, Miho)
就実大学・人文科学部・講師
研究者番号：20734073
(H24 年度より連携研究者)
藤本真理子 (FUJIMOTO, Mariko)
公立大学法人尾道市立大学・芸術文化学
部・講師大阪大学
研究者番号：10736276
(H24 年度より連携研究者)
大田垣仁 (OTAGAKI, Satoshi)
近畿大学・文学部・講師
研究者番号：60732360
(H24 年度より連携研究者)